



実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で4ページ以内に収めてください。

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2026 年 1 月 16 日（25 年度のチャレンジプラン）
プラン名	発奮！「防災×STEAM 道」共助でまもる地域のわ！
実践団体名	公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会 防災意識向上委員会
代表者名	吉田篤
電話番号	090-5443-0877
メールアドレス	ftwqiq@gmail.com
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会は、関東地方の1都7県を活動エリアとする青年団体です。20～40歳の若手経済人や社会人が集い、地域社会の課題解決や地域活性化を目的とした活動を行っており、地域振興、防災教育、環境保全、次世代リーダー育成を柱に、自治体や企業、住民と連携した社会貢献事業を展開しています。その中でも、私たち防災意識向上委員会では、防災意識の向上を通じ、世代や人種を超えた共助の精神により、災害時に全世代が協力して助け合う事で被害を最小限に抑えることのできる社会を目指します。
所属メンバー お名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください	担当副会長：渡辺力也／委員長：吉田篤 副委員長：細谷誠 その他委員会メンバー多数
活動の本拠地 団体の事務所の所在地や居住地など記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。	埼玉県川越市仲町 1-12 川越商工会議所内
活動開始時期・結成時期	2024 年 10 月～2025 年 12 月
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴（チャレンジプラン以外も含む）をご記入ください	



プランの基本情報

<p>プランでの実践主体</p> <p>プランを実践した人の主な属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 学校・教育関係 4. 地域組織 7. 企業・産業関係 8. ボランティア 9. NPO 13. 個人</p>
<p>プランの運営側の人数（実数）</p>	<p>青年会議所メンバー：106人</p> <p>よんなな防災会：2人</p> <p>特定非営利活動法人 親子はねやすめ：3人</p> <p>香川大学創造工学部：1人</p> <p>公益財団法人日本数学検定協会：1人</p> <p>株式会社ダイナックス都市環境研究所：3人</p> <p>株式会社 GEMBA：1人</p> <p>株式会社 GATARI：1人</p> <p>伊澤株式会社：4人</p> <p>株式会社パナソニック：2人</p> <p>茨城県常総市防災課：3人</p> <p>一般ボランティア：11人</p>
<p>プランの活動地域</p> <p>今回のプランで活動をした地域を記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。オンラインによる全国発信・世界発信などがある場合には、その旨も書いてください。</p>	<p>関東地域 1 都 7 県在住の地域住民を対象とした活動を実施。主な活動である防災 STEAM キャンプは茨城県常総市にて、防災フォーラムは群馬県桐生市にて実施。</p>
<p>プランの防災教育の対象者</p> <p>防災教育の対象者の主な属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年）</p> <p>5. 小学生（高学年） 9. 外国人 11. 保護者・PTA 12. 地域住民 13. 企業・組織 15. 障がい者 18. 海外</p>
<p>防災教育の対象者の人数（実数）</p>	<p>約 400 人（防災 STEAM キャンプ 100 人、防災フォーラム 294 人）</p>
<p>プランが対象とする災害</p> <p>プランが対象とする災害</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。</p>	<p>1. 地震 2. 津波 3. 風水害 8. 火災 9. 災害全般</p>



<p>当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	
<p>プランの活動目的 プランの主な活動目的 複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成</p>
<p>対象者が身につく知識・技能等 プランの対象者が身につけることができる知識・技能等 複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い</p>
<p>プランの活動形態 プランの主な活動形態 複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 4. 総合的な学習（探求）の時間 12. 体験学習</p>
<p>プランでの連携先 プランで連携した相手の属性 複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。いない場合には「いない」を残してください</p>	<p>1. 学校・教育関係 4. 町会・自治会 5. 自主防災組織 7. それ以外の地域組織 8. 国・地方公共団体 9. 公共施設 10. 企業・産業関係 11. ボランティア 12. NPO 16. 個人</p>
<p>実践にかかった金額 チャレンジプラン予算額に関わらず実践でかかった費用の総額をご記入ください 具体的金額を記入するか、選択肢から該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</p>	<p>50万円未満</p>

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	防災キャンプ企画立案	1都7県への後援申請	実践会場でのリハーサル
5月	ボランティア調整	実施会場との最終	防災キャンプの実施
6月	防災フォーラム企画立案	防災フォーラム会場下見	防災キャンプ振り返り



7月	講演内容の調整	講師陣との打ち合わせ	防災フォーラム実施
8月	国会見学企画立案	防災フォーラム振り返り	国会見学ツアー実施
9月	関東内における波及効果の検討と検証	講演・ワークショップ準備	関東内各 JC での講演・ワーク
10月	関東内における波及効果の検討と検証	講演・ワークショップ準備	・よんなな防災会との防災協定締結 ・関東内各 JC での防災講演・ワーク
11月	関東内における波及効果の検討と検証	講演・ワークショップ準備	関東内各 JC での防災講演・ワーク
12月	関東内における波及効果の検討と検証	講演・ワークショップ準備	関東内各 JC での防災講演・ワーク
1月	関東内における波及効果の検討と検証	講演・ワークショップ準備	関東内各 JC での防災講演・ワーク
2月	関東内における波及効果の検討と検証	講演・ワークショップ準備	関東内各 JC での防災講演・ワーク
3月	次年度実施内容検討		



実践したプランの内容

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

プラン全体の概要

どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載してください。

写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。

本プランは、親子を中心とした一般市民を対象に、防災を「知識として学ぶもの」ではなく、「自ら考え、行動につなげるもの」として捉え直すことを目的に実施した。防災STEAM キャンプおよび防災フォーラムの二つの実践を通じ、災害時における行政の支援内容（公助）を理解したうえで、それを補完する自助力・共助力を育むことを目指した。

防災STEAM キャンプでは、STEAM 教育の考え方を取り入れ、津波の速さ体験や避難所生活シミュレーション、家族で考える防災計画立案など、体験型・探究型の防災プログラムを実施した。親子で参加することで、家庭内で防災について話し合うきっかけを創出し、学びを日常生活へと接続することができた。

また、防災フォーラムでは、本事業で得られた知見を関東地区内の青年会議所メンバーへ共有し、防災を多角的に捉える視点を発信した。これにより、防災教育の成果を地域や組織へと波及させ、持続可能な地域防災力の向上につなげることができた。





プランの「チャレンジ」の結果

プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。

写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。

本プランにおける最大のチャレンジは、防災教育を一過性のイベントで終わらせず、参加者の行動変容や地域における実践へと発展させる点にあった。防災 STEAM キャンプでは、STEAM 教育を活用した体験型プログラムにより、参加者の多くが防災意識の向上を実感し、家庭内での防災対話やマイタイムライン（避難計画）の作成など、具体的な行動へとつなげることができた。

さらに、防災フォーラムを通じて本プランの成果を共有した結果、実際に地域の青年会議所が社会福祉協議会との防災協定を締結するなど、地域内における防災体制強化の動きが生まれた。これは、防災教育で得た学びが地域の関係機関を巻き込んだ「仕組み」として定着し始めた成果である。

防災を「専門家だけのもの」と捉えるのではなく、多様な立場の人が関わることで地域全体の防災力を高めるという意識転換を促すことができた点は、本プランの大きな成果である。



実践内容・方法・成果

これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。

このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。

【実践①】防災 STEAM キャンプ（中核実践）

目的

親子を対象に、防災を「自分ごと」として捉え、災害時に行政の支援内容（公助）を正しく理解したうえで、それを補完する**自助力・共助力**を育むことを目的とした。

対象・規模

関東在住の小学生とその保護者

参加者：41 家族（子ども 49 名、大人 48 名）

実施内容・方法

本キャンプでは、STEAM 教育の考え方を取り入れ、「なぜそうなるのか」「自分ならどう行動するか」を考える体験型・探究型の防災プログラムを実施した。

主なプログラムは以下の通りである。

- 常総市防災危機管理課による避難所生活レクチャー
- 過去の水害被災者による体験談（通訳体験を含む）
- ドローンを用いた津波の速さ体験や視覚障がい模擬体験
- 避難所生活シミュレーション（役割分担・困りごとカード）
- 家族単位での防災計画立案ワーク
- 防災ドローン操縦体験、炊き出し体験、夜間防災ワ



ーク (防災クエスト)

各プログラムでは、体験後に振り返りの時間を設け、子どもたちが「学んだこと」だけでなく「友だちや家族を助けた行動」を言語化することで、共助の意識を育む設計とした。

成果

参加者の多数が防災意識の向上を実感し、家庭内で防災について話し合うきっかけが生まれた。また、マイタイムライン（避難計画）作成など、具体的な行動変容につながった点が大きな成果である。





【実践②】防災フォーラム（波及・展開）

目的

防災 STEAM キャンプで得られた知見を関東地区内に共有し、防災教育の横展開と地域実装を図ることを目的とした。

実施内容・方法

関東地区内 155 青年会議所、約 6,000 名が集う地区大会において、防災フォーラムを開催した。

防災の専門家による一方向的な講演ではなく、STEAM の観点から多分野の専門家が参加し、「防災とは何か」「多様化社会における防災」「防災×DX」「青年会議所の役割」などをテーマにパネルディスカッションを実施した。

成果

参加者から多くの防災事業構築に関する相談が寄せられ、防災 STEAM キャンプの考え方や手法が各地域青年会議所へ波及する契機となった。

【実践③】国会見学ツアーおよび赤沢防衛大臣への政策提言

目的

防災教育で得た学びを、地域レベルに留めず、**国の防災政策へと接続すること**を目的とした。

実施内容・方法

国会見学ツアーを実施し、内閣府・防災庁設置準備担当である赤沢防衛大臣を表敬訪問した。

本プランの取り組み内容や、防災 STEAM キャンプで得られた気づきをまとめた政策提言書を提出し、災害発生時における対応力の地域差や担い手の偏在を解消するため、**平時から政府と地域実務者をつなぐ地域防災連絡調整機関の設置**を提言した。



	<p>また、防災キャンプに参加した親子も同行し、子どもたち自らが感想や学びを発表する機会を設けた。</p> <p>成果</p> <p>防災教育の成果を政策提言という形で社会に発信するとともに、子どもたちが「防災は自分たちの声で社会を動かせるもの」であると実感する貴重な学びの場となった。</p> <p>【実践④】 よんなな防災会との防災協定締結</p> <p>目的</p> <p>本プランの成果を一過性に終わらせず、継続的な地域防災活動へとつなげるため、平時から連携できる体制を構築することを目的とした。</p> <p>実施内容・方法</p> <p>全国各地の防災に関心を持つ有志約 2,000 名が参加する「よんなな防災会」と防災協定を締結した。</p> <p>本協定により、平時における防災意識向上事業や人材交流、情報共有を行い、災害時には相互に連携・協力できる関係性を構築した。</p> <p>成果</p> <p>本協定を契機として、地域青年会議所が社会福祉協議会と防災協定を締結する動きも生まれ、地域内における防災体制強化へと発展している。</p>
--	---

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

<p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者を決める際の工夫</u></p> <p>例：役割分担を明確にした</p>	<p>・委員長・副委員長・事務局など役割分担を明確化し、実践ごとに責任者を設定した</p> <p>・青年会議所メンバーの得意分野（企画・運営・渉外等）を活かした配置とした</p>
--	---



<p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常総市防災課、社会福祉協議会、防災実務者など地域のキーパーソンと早期に連携した ・よんなな防災会など、既に防災活動の実績を持つ団体と連携した
<p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青年会議所を中心に、行政・大学・企業・NPO を含めた実行体制を構築した ・定期的なオンライン・対面での打合せや検証会議により情報共有を行った
<p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東 1 都 7 県在住の親子を対象としつつ、モデル事業として、実施地域を被災地域である常総市に限定した ・防災フォーラムは関東地区内全青年会議所を対象とし、青年会議所内における波及効果と明確にわけた
<p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始前から年間スケジュールを作成し、計画的に準備期間を確保した ・定例の委員会会議を活用し、準備を継続的に進めた
<p>6. 【準備段階】<u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプは行政施設を活用し、安全面・運営面の確保を図った ・防災フォーラムは青年会議所地区大会と連動させ、参加しやすい環境を整えた
<p>7. 【準備段階】<u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・団体の協力により物品や人的支援を受け、コスト削減を図った
<p>8. 【準備段階】<u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、防災専門家、大学研究者から最新の防災知見を収集した ・過去の災害事例や被災者の体験談をプログラムに反映した
<p>9. 【準備段階】<u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：web サイトを引用した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・STEAM 教育の考え方を取り入れ、体験・探究型の防災プログラムを設計した ・年齢差を考慮し、親子で参加できる教材構成とした



<p>10. 【実行段階】<u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政職員、防災実務者、大学教員などをアドバイザーとして迎えた ・各プログラムで専門家が助言できる体制を整えた
<p>11. 【実行段階】<u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常総市防災課をはじめとする行政機関と連携し、事業への理解を得た ・地域団体・社会福祉協議会との協働を意識した運営を行った
<p>12. 【実行段階】<u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプを1泊2日とし、十分な体験時間を確保した
<p>13. 【実行段階】<u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設や備品を活用し、費用を最小限に抑えた ・協力団体からの物品提供や人的協力を活用した
<p>14. 【実行段階】<u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災フォーラムを通じて、他地域の青年会議所と情報交換を行った ・チャレンジプラン参加団体の事例を参考にしながら改善を行った（特に医療ケア児のフォローなど）
<p>15. 【継続段階】<u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若手青年会議所メンバーを積極的に事業運営に参画させた ・次年度に向けてノウハウを共有できる体制づくりを行った
<p>16. 【継続段階】<u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容や成果を資料・報告書として整理した ・スライドや写真を活用し、再現可能な形で記録した
<p>17. 【継続段階】<u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：web サイトで発信した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災フォーラムや地区大会を通じて成果を SNS 等を通じて発信した ・政策提言という形で国へも成果を届けた
<p>18. 【継続段階】<u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケートや振り返りを通じて課題を整理した ・各連携パートナーとの検証会を実施、次年度改善点を明確化した



--	--

<p>今後の活動予定・今後の展開</p> <p>今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200 字～600 字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの 2～3 枚程度にしてください。</p>	<p>次年度は、本年度の防災 STEAM キャンプおよび防災フォーラムで得られた経験を活かし、平時からの防災リテラシー向上に重点を置いた取り組みを進める予定である。具体的には、BCP はもちろんのこと、Family Continuity Plan（FCP：家族継続計画）の導入を通じ、各家庭が災害時どのような行動し、生活を継続するかを考える機会を創出する。</p> <p>また、地域青年会議所が主体となって防災事業を実施できるよう、これまでの実践で得た知見を活かした運動支援を行う。社会福祉協議会や地域団体との連携をさらに強化し、家庭・地域・組織が連動した持続可能な地域防災体制の構築を目指す。</p> <p>本年度の取り組みは、次年度以降の活動へと継承され、防災教育を起点とした地域防災力向上の循環を生み出していく。</p>
--	---

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

<p>その他（PRポイントなど）</p> <p>これまでのセルで書けなかった内容などについてもあれば記載してください。</p>	<p>本プランでは、子どもたちが防災を「教えられる側」ではなく、「考え、発信する主体」となることを重視した。防災キャンプや政策提言の場において、子どもたち自身が学びや気づきを言語化し、社会へ伝える機会を設けたことは、防災意識の向上に加え、次世代の地域担い手育成にも寄与する取り組みであった。</p> <p>もちろん内容面にこだわりを持って進めたが、このプランが最適なのではなく、参加者が主体的に防災に取り組む 1 つのモデルとして関東内に波及していくことができた。</p>
--	--



チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見

この項目は審査対象になりません。

任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。

<p>チャレンジプランを実践しての感想・想い</p> <p>チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。</p>	<p>本プランを通じて、防災教育は「正しい知識を伝えること」だけでは十分ではなく、「自分ごととして考え、行動につなげるきっかけをつくること」が重要であると改めて実感しました。防災 STEAM キャンプでは、子どもたちが体験を通じて真剣に考え、家族と話し合い、自分の言葉で防災について語る姿が多く見られました。その様子は、私たち運営側にとっても大きな学びとなりました。</p> <p>また、防災フォーラムや政策提言を通じて、防災教育の成果を地域や社会へと広げていく可能性を実感することができました。一方で、多言語対応や外国人家庭の参加促進など、今後さらに取り組むべき課題も明確になりました。</p> <p>本チャレンジプランへの参加は、団体としての防災に対する姿勢や役割を見つめ直す貴重な機会となりました。今後とも本年度の経験を活かし、地域に根ざした防災教育と共助の輪を広げていきたいと考えています。</p>
---	---